

音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設に関する意見交換会の概要

■令和8年4月14日の基本設計及び管理運営指針公表以降に、市と音楽・演劇関係者、災害文化活動関係者等との間で実施した意見交換会の概要について掲載しています。

■令和8年4月30日までの実施分を掲載しており、今後随時更新予定。

区分	種別	意見交換の概要
音楽・演劇関係 (2回開催)	基本設計	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな大会の開催を想定した場合には、大型バス、大型トラックによる混雑対策や楽器等の搬出入にあたっての導線の確保に留意してほしい。 ⇒(市) バスの乗降スペースはバスが3台並べる程度のスペースを確保している。また、搬入用のスロープは11t車まで通行可能で、幅も7.5mあるため対面通行も行える。楽器の積み下ろしのスペースも現状の設計であれば対応可能と考えている。 ・女性用トイレは混雑しやすいため、空室状況が外からでも確認できる仕組みがあるといい。 ⇒(市) 中間案に対してご意見あったところであり、大ホールのトイレ配置の修正や基数を増やすなど対応を行ったところ。表示方法についてはデジタルな方式とするか、または物理的な方式とするか、運用方法も含め実施設計で検討していきたい。 ・大練習室のドアの大きさについて、幅が狭いと搬出入時が困難な楽器も出てくるため考慮してほしい。 ⇒(市) 幅は1600mm～1800mm程度。具体の建具を決定する段階でも留意したい。 ・駐車場は、一般用90台、関係者用30台というのは変わらないのか。 ⇒(市) 現状、敷地内で台数を増やすことは難しい。来場者への周知をしていくほか、青葉山エリア全体で駐車場の確保を検討していきたい。
音楽・演劇関係 (2回開催)	管理運営指針	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱や吹奏楽等の全国大会は全国で持ち回りの開催だが、仙台には2,000席規模のホールがないため、順番が来ても開催ができず他都市に譲らざるを得ない現状があり、ホールができれば開催できるようになるため期待している。また、日本国内に加え、世界中の一流オーケストラやオペラ等を仙台で見ることができるようになることは夢がある。 ・複合施設なので音楽資料なども備えた施設となるといい。 ⇒(市) 3階には災害文化の資料コーナーを整備することを考えている。また、4階のフリースペースに音楽関係の展示を行うことも検討している。 ・屋内遊び場も整備されるし、こどもが来てもらえる施設になることが大切。 ⇒(市) 屋内遊び場のアクセス向上も含め検討し、エリア内の連携を考えていきたい。また、親子連れが訪れるような自主事業も積極的に展開していきたい。 ・施設整備や運営にあたっては、中核となる人材の確保が必要と考える。 ⇒(市) 人材の確保に向け、指定管理事業者の選定スケジュール等についても留意していきたい。 ・ホールの利用料金はアマチュアの団体でも使用できるような水準になるといい。 ⇒(市) だれもが気軽に利用できる施設とするため、既存ホールとのバランスも見ながら適切な水準となるよう検討していく。 ・仙台市のホール予約システムは倍率が100倍～200倍になることもあり利用できないことも多い。抽選方法等について、公平性のある運用を検討してほしい。 ・催事の開催にあたっては、青葉山エリア全体のイベント情報や駐車場情報、地下鉄に絡めたパークアンドライドができる場所について、利用者が分かるように周知しておく必要があると思う。
災害文化関係 (5回開催)	基本設計	<ul style="list-style-type: none"> ・3.11メモリアル交流館には、アーカイブ機能がないので中心部拠点ではその機能を備える必要があると考えるが、閉架書庫がないように見える。震災のバックボーンとしての膨大な資料を取り出せるようにしておくことが必要だと思う。 ・3か所の常設展示が離れたところに配置されているが、それぞれのスペースの役割を考えるべき。3か所すべてを回らないと展示内容が理解できないという構成は避けるべきと思う。 ・2階の企画展示ブースへの搬入が、常設展示ブースを通過しないといけない構造になっており、エリアを逆にするなど、検討してほしい。 ・全体的に壁がないため、展示物や掲示物が平置きになり、下のロビーからは見えづらくなるのではないかと。施設を訪れた人が下から見たときに設計の意図である各フロアのつながりが失われてしまう恐れがある。そのため垂直面の掲示ができるような空間の確保に努めた方がよいと思う。 ・部屋の天井にスピーカー等の耐荷重に耐えられるバトンを取り付けてもらえると展示の際などに役立つ。 ・クワイエットスペースは中身が見えず、本当に必要な設備が臍に落ちないところがある。

音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設に関する意見交換会の概要

■令和8年4月14日の基本設計及び管理運営指針公表以降に、市と音楽・演劇関係者、災害文化活動関係者等との間で実施した意見交換会の概要について掲載しています。
 ■令和8年4月30日までの実施分を掲載しており、今後随時更新予定。

区分	種別	意見交換の概要
災害文化関係 (5回開催)	管理運営指針	<p>・早期に、芸術的な質を担保できる芸術監督のポジションの登用が望まれるとともに、運営する人材を育てることが必要だと思う。</p> <p>・設計の意図を組みながらも施設として可変性を持たせることが大切。震災の捉え方もこの15年で変化してきた。そうした変化に合わせ、施設のプロプログラムを定期的に見直せる仕組みづくりも必要と思う。</p> <p>・展示スペースが複数あるなら1つは東北大学の災害研による最先端の研究を紹介するブースを設けてもよいのではないかと。情報を将来にわたりアップデートすることもできるし、施設として安定した価値の提供につながると思う。</p> <p>・整備の話を知らない人もまだ多い。音楽・舞台芸術系のみならず、様々なジャンルの人に施設利用イメージを持ってもらえるようになるといい。多くの人が自分たちも使える施設であると理解できると、施設整備のことを自分事として捉える人が多くなっていくのではないかと。その意味では、プレ事業動画も見てもらえるといい。</p> <p>⇒(市) 様々なジャンルを受け止められるように、連携して運営を行っていくことが大事だと考えている。施設の利用イメージが広く伝わるよう、周知広報にも力を入れていきたい。</p> <p>・施設を単なる貸館と思っている人は多いと思う。劇場自体がアウトリーチをすることを知らない人はすごく多い。劇場は人を受け入れる施設のイメージをする人が多いと思うので様々な主催事業を行っていくことを伝えていく必要があるのではないかと。</p> <p>⇒(市) 施設の利用イメージが広く伝わるよう、周知広報にも力を入れていきたい。</p> <p>・中心部拠点は沿岸部拠点と連携しつつも、沿岸部拠点ではできない、創造的な活動の部分をカバーできるといいと思う。</p> <p>・震災の時、避難所でクラシック演奏が行われた際に、当時音楽ホールや劇場に縁がなかった人、そして演奏家自身も音楽の本質に触れて心癒されている場面を沢山見てきた。この施設もそうしたアウトリーチの側面を深掘りすることで魅力的な施設とするヒントが得られると思う。</p> <p>・震災の経験者は時の経過とともに減少してしまう。そのため、この施設を通して共事者(当事者ではない立場から関わりつつも、思いやアクションを共有する人々)のような存在をどれだけ生み出せるかが大事だと思う。</p> <p>・それぞれの地域に災害文化の実践例がある中で、施設としてそのゲートウェイとしての役割を目指すのであれば、アーツカウンシルのような芸術と市民生活の橋渡しをする機能が必要なのではないかと。</p> <p>・施設自体は非常に楽しみにしている。仙台のみならず、話題になる施設である。早く完成してほしい。仙台に住んでいる以上「災害」の観点は、切っても切り離せない。</p> <p>・建築ファンによる建築目的の来訪増も見込めると思うし、仙台にとって魅力的な資産になるという声を聞いた。</p>
まりづくり関係 (1回開催)	管理運営指針	<p>・イベント開催時には道路の混雑も想定される。基本的に車で来ることを想定していないのであれば、青葉山エリア全体としてトランジットモール化も検討する必要があるかもしれない。そうしないと来てほしいと呼びかけても、行きたくても行けないという話になってしまう。その点をエリア全体で検討できる体制を作るべきと思う。</p> <p>・青葉山エリアは現状、飲食店が少なく、客単価が低いと経営が難しいと感じている。そのため日常的に人が来る状態にならないとビジネス的には厳しい。MICEの開催場所として複合施設単体ではなく、青葉山エリア全体でどのように考えるかを一体で議論していく必要があると思う。</p> <p>・館長やプロデューサーなどは早めに決めた方が、施設の方向性も決まり、施設のみならずエリア全体に対するイメージも湧きやすくなり期待感が出てくるのではないかと。</p>
研究機関 (2回開催)	管理運営指針	<p>・東日本大震災後の伝承施設は、それぞれの土地ごとに整備され展示を行っている。それらをまとめた総合的な展示を行っている施設がないため、仙台は東北の代表として全被災地の窓口となり世界へ発信していくためにも、東日本大震災について総合的な展示をしてもいいと思う。</p> <p>⇒(市) ご意見を踏まえ、展示内容について検討していく。</p> <p>・災害伝承研究の知見では、災害そのものを強く打ち出して伝えようとする、時間がたつにつれて忘れられやすいという半ば逆説的なセオリーがある。この施設は、災害を前面に伝えるのではなく、音楽ホールや文化芸術の活動と一体とした設計・運営とすることで、自然と人が集い、結果的に災害の記憶が次の世代にも長く残り続ける効果が見込まれる。</p> <p>・東日本大震災以降の伝承施設は、アートと区別されてきた。伝承施設にアートの力が生かされてこなかったのはなぜだろうと考えていたので、今回複合施設とすることには意味があると思う。</p> <p>⇒(市) 災害伝承を芸術と組み合わせることで、一個人の体験を超えた経験としてつなげていく力を生み出せると考えている。</p>

音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設に関する意見交換会の概要

■令和8年4月14日の基本設計及び管理運営指針公表以降に、市と音楽・演劇関係者、災害文化活動関係者等との間で実施した意見交換会の概要について掲載しています。

■令和8年4月30日までの実施分を掲載しており、今後随時更新予定。

区分	種別	意見交換の概要
メディア・プロモーター関係 (1回開催)	基本設計	<p>・コンサートホール形式のような可動式客席を利用したいとは思えない。配信を前提とした場合に、映り込みなど、撮影許可を取らなければならない。ステージ後方の可動式客席部分を隠す(空席に見えないような工夫)コストなどを含めた採算性を考慮して、会場として選ばれない施設になってしまうのではとの懸念がある。</p> <p>⇒(市) ステージと客席とで一体感を演出するという視点で検討をしている。</p> <p>・ホールの各形式での収容人数について、レイアウトによってはカメラやスピーカーなどの機材を配置するため200席くらい使用できなくなってしまうこともある。実際の収容人数としては、2000席より使用できる座席数が減ると想定される。下見よりも先に会場を押さえなければならないケースも多いため使用イメージなどが資料で確認できるようにしてほしい。</p> <p>⇒(市) 舞台と設備の詳細は引き続き検討していく。利用者が使用イメージを持つことができるように留意したい。</p> <p>・動線だけでなく使い勝手が悪い。音重視にも関わらず、無理やり多目的ホールにしている印象がある。</p>
メディア・プロモーター関係 (1回開催)	管理運営指針	<p>・経済効果の見込み方が現実的な数値とは思えない。毎日2,000人ホールを埋める公演があるとは思えない。</p> <p>⇒(市) 経済波及効果は大ホールだけでなく、他の諸室や中心部震災メモリアル拠点等も含めた施設全体として試算した数値となっている。</p> <p>・施設整備にあたって市と県の間でコミュニケーションが取れていない印象。同規模のホールを作ると小規模ホールの不足が出てしまうのではないかと。市民会館や電力ホール、サンプラザなどの今後についても引き続き検討してほしい。</p> <p>⇒(市) 市民会館のホール機能は廃止することとしている。電力ホールやサンプラザの状況については認識しており、今後も情報収集を行いながら検討していく。</p> <p>・仙台市としてコンサート等を誘致する姿勢も必要。仙台フィルの専用会場という印象を持たれてしまうと思う。</p> <p>⇒(市) 新たな顧客を生み出すうえでも創客という観点での取り組みも必要と考えている。運営については、今後さらに詳細に検討していく。</p> <p>・大ホールに事業費がかかっている中で費用対効果のバランスはどうか、市民活動における大ホールの需要はあまりないのでは。</p> <p>⇒(市) 様々な方々に利用いただけるように、また共同開催などの事業展開も検討していく。</p> <p>・地元のコンサートやコンクールなどの会場は利用料の減免があれば、そうしたことも前提に選定している。公開番組なども自治体と共同で開催することも多い。収支とは別なパブリックの観点で仙台市と協力できるものがあれば取り組みたい。</p>